

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月25日  
札幌市立藤野小学校

## 1 本年度の重点目標

学び・心・仲間がつながる あたたくて・たのしい学校

## 2 本年度の経営方針

**あたたくて・たのしい学校**

○子どもの「～したい」を応援し価値付ける。  
 ・子どもにとって学びがいのある楽しい学校  
 ・保護者にとって通わせたい信頼できる学校

○「あこがれ」と「思いやり」があふれる  
 ・職員にとって働く充実感のある学校  
 ・地域にとって連携しがいのある学校

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野             | 評価項目  | 自己評価 |   | 学校関係者評価  |         |
|----------------|---|------|---|----------|---------|
|                |   | 達成状況 | 改善の方策   | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学び             | 問題解決的な授業作りを行うことができた。  | A    | イントロダクションとリフレクションを大切にしていく。また、問いの連続を意識し授業及び単元の繋がりを吟味する。                              | A        | A       |
|                | 教師や友達の話を聞いたり、自分の考えを話したりするよう育むことができた。  | A    | 個と個をつなぐことを大切にしていく。他の子と関わる中で、自分の考えを広げたり深めたりする子どもを育成する。                               | A        | A       |
|                | 個に応じた指導を行うことができた。   | A    | 配慮を必要とする児童に対して、個に応じた適切な対応をしていく。学校内で情報共有し、迅速に対応する。                                   | A        | A       |
|                | 宿題や家庭学習を促進する指導を行うことができた。  | B    | 家庭での学習については、カードに内容を記述させたり、具体例を様々な方法で例示したりすることで、自ら進んで考え、取り組む子どもを育てる。                 | A        | B       |
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人前で自分の考えを分かりやすくしっかりと発表することができる。</li> <li>・伸び伸びと学べる雰囲気が良い。</li> <li>・一人一人に応じた探究的な学びを大切にしつつ、到達度を把握するためのテストが欠かせない。</li> <li>・家庭学習のあり方や定着については、小中共通の課題として取り組みたい。</li> <li>・家庭学習のカードについては、具体的に活用していきたい。</li> </ul> |      |   |          |         |
| こころ            | 子どもの気持ちに寄り添いながら、適切なアドバイスを行うなど、温かい居場所としての学級経営を行うことができた。  | A    | ブロック学年学級経営交流会を中心に、年3回各学級の様子を情報共有し、学級経営のよさを学び合う。ブロックや学年合同での学習を取り入れ、複数の目で子どもたちを育てていく。 | A        | A       |

(様式2)

|                |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|
| こころ            | いじめゼロを目指して未然防止の手だてを講じたり、早期発見に努めたりすることができた。  | A | 1か月に1度、いじめ防止対策委員会と学びの支援委員会を行い、常に児童の小さい変化を見逃さないよう情報共有し、早期発見早期解決に向かう。             | A | A |
|                | 挨拶や正しい言葉遣いが習慣化するように、日常的な指導を進めることができた。   | A | 挨拶や言葉遣いについては、日常的な指導が必要である。子ども発信の活動の中でも、啓発活動をしていく。                               | A | A |
|                | 読書への意欲付けや読書環境の充実を図ることができた。  | A | 朝の読書活動の継続や開放図書館との連携による読み聞かせ、学級図書BOXを作って月ごとに本を入れ替えるなど、本に触れる機会を作っていく。             | A | A |
|                | 相手の気持ちを考え、協力して生活する態度を育てることができた。   | A | 考え議論する道徳や日々の学級指導において、相手のことを考える大切さについて継続した指導をしていく。                               | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀正しく、挨拶がしっかりできていて、言葉遣いも丁寧である。</li> <li>・交友関係については、よく指導していただいている。</li> <li>・読書については、各家庭での理解・協力が必要である。</li> <li>・読書を通して、心情を言語化する力を養ったり、自分とは違う考えがあることを知ったりしてほしい。</li> <li>・読み書きなど、基礎的な学力の習得は大切であるが、読書を継続することも不可欠である。</li> </ul> |   |   |   |   |
| からだ            | 進んで体を動かして遊んだり、進んで運動したりする態度を育てることができた。   | A | 運動したくなる環境づくりに努める。「マット跳び箱週間・鉄棒週間」などの取組を設定する。縄跳チャレンジや縄跳びカードの活用を継続する。              | A | A |
|                | 時間を守り、規則正しい生活を心がける態度を育てることができた。   | A | ルールを守ることの大切さを日々の指導の中で徹底する。学校として毎月の目標を設定し、啓発していく。                                | A | A |
|                | 食物の栄養に関心をもち、好き嫌いなく食べようとする態度を育てることができた。  | A | 北方自然教育園や教材園での活動及びや学級活動「ふじのっこ」を通して、食物や栄養に目を向けさせ、感謝の気持ちや食への意識を高める。                | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験が不足しがちである。より一層、子どもたちに機会を与えてほしい。</li> <li>・野球やサッカー、空手など地域のスポーツ活動や少年団活動も知らせてほしい。</li> <li>・北方自然教育園での食の生育過程の経過を知る学習が大切である。</li> </ul>  |   |   |   |   |
| きずな            | 各種お便り、参観懇談等を通して、家庭や地域に適切な情報発信を行うことができた。   | A | 様々な学校情報を、アプリ「すぐーる」を使い、デジタルでの送信を基本とする。また、HPを活用し情報提供を行っていく。参観懇談や面談などの対応も適切に行っていく。 | A | A |
|                | 安心・安全な登下校、不審者対策、避難訓練など、児童の安全を確保することができた。  | A | スクールガードや保護者・地域の方々と連携を図り、登下校の安全の徹底を図っていく。また、避難訓練など実効性を高め、安全・安心を確保する。             | A | A |

(様式2)

|                |   |   |  |   |   |
|----------------|---|---|--|---|---|
|                | PTA 活動・開放図書館・スクールゾーン実行委員会などを通して、家庭や地域と連携することができた。 | A   | 総合的な学習の時間の「マイタウン藤野」でのゲストティーチャーやスキー学習のボランティアなど、学習場面での連携を密にしていく。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 |   | <ul style="list-style-type: none"><li>・PTA の取組や、PTA 会費の活用など、もっとフランクに伝えていきたい。評議委員会やスクールゾーン実行委員会などの取組の周知も必要である。</li><li>・今後も地域との連携を大切にしていきたい。</li><li>・学ぶことが一番楽しいはず。学習環境としては良好である。</li><li>・きずなという項目名がよい。</li></ul> |  |   |   |

※自己評価 上段=評定

中段=教職員アンケートの平均値

A=4、B=3、C=2、D=1 として加算し、母数で割ったもの。(最高値=4)

下段=教職員アンケートの A,B 評価 (肯定的評価) の割合

※自己評価の評定について、教職員アンケートの年平均値 3 以上を A の一応の目安とする。

(その他、児童、保護者アンケート等の要素も加味)